



# がん治療の発展



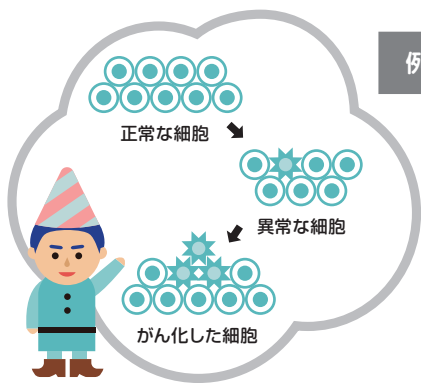
のための研究が行われています

がん  
と  
日本人

いまや日本人の2人に1人が一生のうちに何らかのがんにかかります。  
国民病とも言えるがんに打ち克つべく、多くの研究者が、がんの仕組みを知り、  
新しい診断技術・薬・治療法を開発するために、日々研究に取り組んでいます。

みなさまにご提供いただいた血液や組織は様々ながん研究に活用されます

研究への協力にご同意いただいたみなさまから、  
血液や体液、がん組織や正常組織などの「試料」をご提供いただいています。  
がん患者さんとがんでない人の試料を比較したり、  
がん患者さんのがん細胞と正常細胞を比較したりすることで、様々な研究に役立てています。



がん細胞ができる、  
がんが周囲に広がる、転移するといった、  
**がんのしくみを探求する研究**

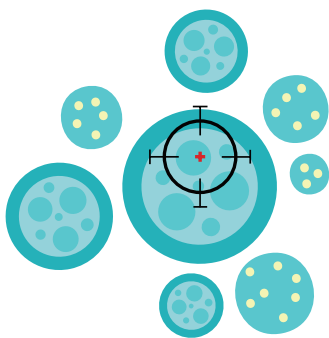
例えば、以下のような研究が行われています。



あらかじめ薬が効くかどうかを  
簡単に判断したり、むだな投薬を防いだり、  
**最適な薬を見つける研究**



少量のがん細胞を  
より早く確実に見つけるための、  
**早期診断の研究**



がんの複雑な構造を  
明らかにすることによって、  
**新しい目印を開発する  
ための研究**



最も有効に薬の成分が発揮されるように  
するため、体内での薬物の動きを制御し、  
**最適な形でがん細胞に  
有効成分を到達させる技術の開発**



がん細胞に特有の分子を見つけ、  
それを標的として、  
**がん細胞だけを攻撃する  
技術の開発**

がん医療の発展のために、いま、複数の研究機関による共同研究や、データの共有が求められています

みなさまにご提供いただいた  
試料・情報が研究に活用されるまで



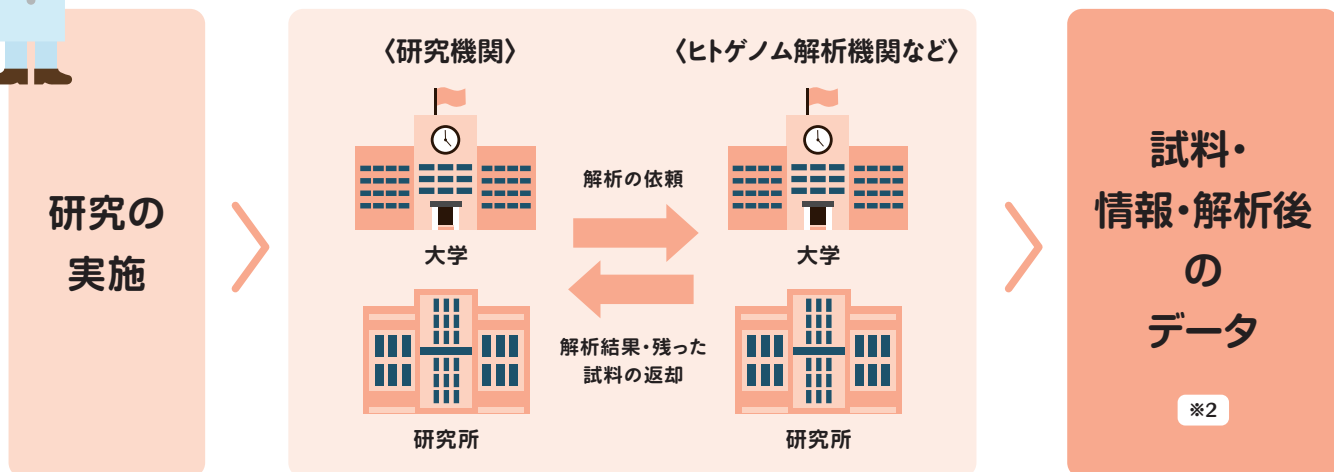
## 医療機関

まず、患者さんやご家族に研究についてご説明します。同意をいただいた場合、試料や情報を収集させていただきます。



## 研究機関

いただいた試料や情報を解析して、がん医療の研究を行います



大学・企業へ

## データベースやバイオバンク



いただいた試料やデータを登録・保管し、様々な研究機関が活用できるようにします。

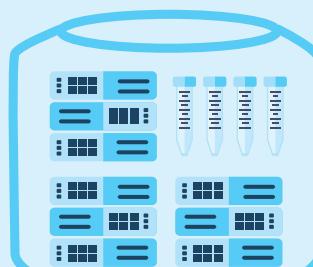
試料・  
解析後の  
データ



〈データベース〉 ※3



〈バイオバンク〉 ※4



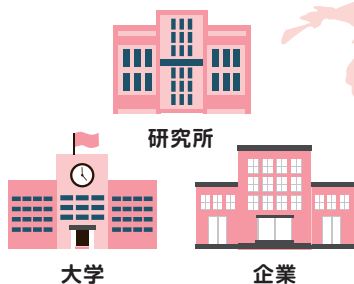
試料・情報・解析後のデータ

## 国内外の大学・企業

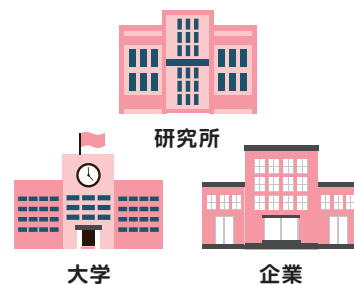


がん医療の研究にさらに役立つため、試料・データは、国内外の研究機関や企業などで広く活用されます。

〈国内〉



〈海外〉



### 『がん治療』 の発展

新しい診断技術、検査方法、  
薬、治療法などの開発を目指します。



※1

ご提供いただく試料・情報は、  
参加される  
研究によって異なります。

※2

試料・情報・解析後のデータは、  
氏名・住所・生年月日などの  
個人情報を取り除き、  
代わりに研究用の番号をつけて厳しい  
セキュリティ対策のもと管理します。  
個人を特定しうる  
情報が送られることはありません。

※3

研究で解析されたデータは、  
データベース(裏面Q&Aを参照)に  
登録のうえ広く公開され、  
様々な研究者に活用されます。

※4

研究によっては、研究で残った試料を  
バイオバンク(裏面Q&Aを参照)に  
移管することがあります。  
試料は、様々な研究者のもとで、  
すべて使い切られるまで研究に  
活用されます。

# Q & A

みなさまからよくいただくご質問を掲載しました。  
本研究について何かご質問がある場合は、  
担当の医療スタッフまで気軽にお尋ねください。



## Q1 提供した私の試料・情報は、研究が終わった後どうなるの？

A

ご提供いただいた試料・情報は、将来の研究に活用される場合があります。みなさまにご提供いただいた血液やがん組織などの試料、そしてそれらを用いた研究で得られたデータは、大変貴重なものです。

貴重な資源からより多くの研究成果を生み出すため、試料・情報・研究データは国内外の研究機関と共有され、将来、新たな研究に幅広く活用される可能性があります。また、新しい医薬品や診断技術の開発のために、国内外の企業にも活用されることがあります。

将来の研究に活用されるかどうかは、個々の研究によって異なります。詳しくは、研究に参加される際の説明同意文書、または担当の医療スタッフにご確認ください。

## Q2 データベースやバイオバンクって何ですか？

A

データベースでは、研究の解析結果などのデータを広く集め、整理し、別の研究者が利用できるように管理しています。現在、国の支援を受けて実施される研究は、研究成果をデータベースに登録し、他の研究者が利用できるよう広く公開することが義務づけられています。例えば、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が運営する、バイオサイエンスデータベースセンター (NBDC) のヒトデータベースがあります (<http://humandbs.biosciencedbc.jp/>)。

また、バイオバンクでは、血液や組織などの試料そのものを、保存・管理し、他の研究者に分配しています。一部の研究では、提供者のみなさまから同意を得た上で、研究に使用した試料の残りを公的バイオバンクや大学等有するバイオバンクへ移管しています。

## Q3 なぜ研究データを共有する必要があるの？

A

研究には非常に多くの時間と資金がかかります。貴重な資源を多くの研究者で分かち合うことで、より早く、より効率的に、より多くの研究成果を生み出せるようになるからです。また、データを公開することで透明性が保たれ、さらに、研究領域の重複による無駄を省くことにもつながります。

## Q4 提供した試料・情報が他の機関に渡るとき、どんな処理をするの？

A

試料・情報は、病院から他の機関へ提供されるときに、お名前、住所、生年月日などの情報を取り除き、新しく研究用の番号を割り振る処理をします。また、試料・情報を使用する研究者は、研究計画について倫理的に問題がないかどうかの審査を受けます。適切な情報管理の下、研究を実施いたします。



〈研究に協力してくださる方を募集しています〉



国立研究開発法人  
日本医療研究開発機構



P-PROMOTE ウェブサイト  
<https://p-promote.jfcr.or.jp>

このパンフレットに関するお問合せ先

次世代がん医療加速化研究事業 (P-PROMOTE)  
研究推進サポート機関 研究倫理支援グループ  
〒108-8639 港区白金台4-6-1  
東京大学医科学研究所 公共政策研究分野  
Email: p-promote.support.elsi @ pubpoli-imsut.jp

- 日本医療研究開発機構 (AMED) は、基礎から実用化までの一貫した医療研究開発の推進、その成果の円滑な実用化を図るとともに、研究開発環境の整備を総合的かつ効果的に行うためのさまざまな取り組みを行っています。AMED はデータシェアリングに積極的に取り組んでいきます。
- 令和4年度から開始した「次世代がん医療加速化研究事業」は、「がん研究10年戦略」に基づいて、基礎研究の有望な成果を厳選し臨床研究等へ導出することや、臨床研究で得られた臨床データ等を基礎研究等に還元することで、医薬品・医療機器開発をはじめとするがん医療の実用化を加速する研究開発に取り組みます。